

いるすま Smile

日本を好きに

なつてもらいたい

Vol.113

島田 陽子さん
(通津在住)

通津小学校の国際交流会で料理作りの通訳ボランティアを行っている。よりよい通訳のために料理の歴史や専門用語についての事前勉強を欠かさない。同小に通う2児の母。



通津小学校では、米軍岩国基地内の子供と保護者を招き、児童や地域住民と一緒に日本の文化体験や料理作りを通じて交流する、国際交流会を行っています。そこで通訳ボランティアとして活躍しているのが島田陽子さんです。市内の企業に勤務し、主に通訳や翻訳の業務を担当している島田さん。アメリカで祖母が生まれ、親戚も多く住

むなど、岩国で生まれ育ちながらアメリカが身近な存在でした。「小さい頃から英語の音、川の流れのような感じが心地よくて大好きでした」英語のCDを何度も聞いて真似したり、スピーカーコンテンツに向けて練習に励んだり。そんな英語に触れ合う時間が楽しくて仕方がなかったそうです。

大学では英語のスピーチ論を専攻し、アメリカ留学も経験。一度

は就職しましたが「英語のことをもつと深く勉強したい」と会社を辞め、渡米し大学院に進学します。

さまざまな国の学生と一緒に学び、多くの時間を過ごす中で強く印象に残ったのは「みんな自分の国が大好きで誇りを持っている」ということでした。5年間アメリカで過ごした後に帰

国、母親になった島田さんですが「日本を大好きで、自慢できる子になってほしい。その上で広い世界を知ってほしい」という思いで子供と過ごしています。空手を習っている息子が国際交流会で演武を披露した際には「礼に始まり礼に終わる日本の文化を紹介できてすごうれしかった」と感激した島田さん。ある思いを持って通訳ボランティアに臨んでいます。

「異国ではどうしても不安な気持ちになるもの。そんなときに安らぎになるのは人の温かさだという実感があります。日本人の温かさ、優しさが伝わる、人の気持ちをつなげられる通訳を心掛けています。『日本ではとても温かく迎え入れてもらった。日本が好き』そう思ってくれる人が一人でも増えたらうれしいし、小さなことかもしれないですが、このような積み重ねが平和にもつながるんだと信じています」

▼調理方法だけでなく、おもてなしの心が伝わる通訳を心掛けているという島田さん



▲メニューを決める際には、食文化や宗教の違いなどにも配慮する



▲留学先のアメリカでは海外ならではの体験から多くのことを学んだ